

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 香久山会		
施設名	学研奈良ピュア保育園		
報告者（役職）	岡田久代（園長）		
住所・連絡先	奈良県奈良市中登美ヶ丘 6 丁目 15-1		
	☎	0742-81-3081	
	E-mail	gaken-pure@helen.ocn.ne.jp	

○タイトル（保育計画）

こころにいっぱいの栄養を！

○主な助成備品

絵本（300 冊）、本棚、チェスト、ベンチ、テーブル、スクリーン、マット

1. 保育計画策定の目的

保育園の保育方針として、どんな家庭環境、どんな育児方針のなかで生まれ育っていても、保育園は、すべての子どもの健康と安全を守り“心を育てる保育”を提供していきたいと考えて保育園を開園いたしました。

その保育の実践の為に自然環境（ビオトープ、菜園、花壇、等）を整備してきました。

自然との触れ合いの少ない子ども達は、園庭でザリガニ釣りをし、トノサマガエルの泳ぎやジャンプに感動、また園庭のお花の蜜を探して飛んできたチョウチョや水辺に集まるトンボを追いかけて自然に関わる楽しさに気づき始めました。

しかしながら、自然との関わりの少ない子ども達にとって、自然の生き物の命がおもちゃになってしまうことが危惧されました。

子ども達の自然との関わりに合わせて、子ども達の心に温かいスープとなる沢山のお話を重ね合わせながら読み聞かせてあげることで“命”の大切さを感じ自然と関わりながら心豊かに育って欲しいと考えていました。

実際、保育園の開園にあたり施設整備は整ったものの、子ども達の心の栄養となる絵本教材の準備はできていないのが現状でした。

保育士達は、自分が大切にしている絵本、童話を持ち寄り子ども達に読み聞かせていましたが、子ども達が読みたい絵本、読んで欲しい絵本を自分で選んで心をほっこりできる環境を整えるまでは出来ていませんでした。

2. 具体的な実施内容

保育園の建設時に、緊張し心尽くして働く保育士にとって休憩時間を取るために確保していたお部屋を“絵本の森”とネーミングして子ども達の為に開放することにしました。（職員の休憩室は、更衣室が広い為そこを使用）

絵本の森の設備として必要な本棚、机、椅子等の備品は、保育士が考えたものを工房で作製していただき、手作り感のある暖かい物が準備できました。



① 絵本の選定にあたり

絵本は、子どもが実際に経験したことや実際に経験のできない想像の世界を味わうことができ、乳幼児期の成長や発達に多大な影響を与え子どもの感性、想像力を育み、命を大切に心の豊かな子どもに育つための栄養となります。

・乳幼児期に出会わせたい絵本

本物の生活がある絵本

作者のメッセージ性のある絵本

絵が美しく表現されている絵本

児童文学としての物語、民話

このことを、基本にしてこの絵本を読んだ時の子ども達の反応を想像しながら職員で絵本を選びました。この時が一番うれしい時間でもありました。

② 「絵本の森」の環境

自分で絵本を選ぶ喜びを味わっていただけるように、年齢、発達に合わせた展示、配置を工夫しました。

椅子に座っても、机を使っても、床に座っても、先生のお膝でも自分の好きなところで絵本を楽しめる空間にしました。

時々本箱、机、椅子の配置を変えてみました。



〈0才児は先生のおひざにのったり、自分でページをめくって絵をたのしんでいます。〉



〈1才児 紙芝居はじまるよ!〉



〈2才児は絵をみながら自分のことばでおはなしをしています。〉



〈4・5才児 好きな絵本がいっぱい！お友達といっしょに読むのも楽しんでいます。〉

3. その成果と評価

・「絵本の森」というお部屋が子ども達にとって、お楽しみの空間となり絵本を自分で選べること、好きなだけ読めることで気持ちが充足して「今日も行きたい」と期待し、絵本が大好きになり落ち着いた時間を過ごせるようになりました。

・保護者からは、こんな落ち着いた環境で絵本を読んで貰え、自分で好きな絵本を選んで読めるのが嬉しいようだとされました。

・自然との触れ合いの中で出会った経験が絵本を読み聞かせることによって、より深く世界が広がり想像力が豊かになってきました。

4. 今後の課題と展望

・子どもの絵本への興味に伴い、絵本の数は、まだまだ十分とは言えません。
これからも、新しい絵本との出会いを考えて絵本の増冊も必要だと思いますので、購入計画をしながら「絵本の森」の充実を考えていこうと思います。

・今年度は、家庭への絵本の貸し出しが実施できませんでしたが、今後は貸し出しの方法を検討して、就労しながら子育てをされている多忙な保護者の方が子どもと一緒に絵本を楽しんでいただけるようにしていきたいと考えています。

・園庭用のベンチやテーブルも作製し芝生の上や、木陰で紙芝居や絵本を楽しませていく予定でしたが、樹木の育ちが悪く木陰が作れないので、今はそのベンチを玄関ホールに置いて地域の子供たちがそこで絵本を読んだり紙芝居を楽しんでいます。樹木が大きくなって木陰が出来たら園庭でも風を感じながら絵本の読み聞かせや紙芝居をしていきたいと思っています。



〈地域の子供たちがホールで
絵本を読んでもらっています。〉



〈みつばちマーヤのぼうけんのお話を聞いて作りました。〉

以上